

11 ルートの性質

11.1 定理. G をコンパクト連結 Lie 群とし G の極大トーラス T を 1 つとる. \mathfrak{g} と \mathfrak{t} をそれぞれ G と T の Lie 環とする.

$$\mathfrak{g}^{\mathbb{C}} = \mathfrak{t}^{\mathbb{C}} + \sum_{\alpha \in \Delta(G)} \mathfrak{g}_{\alpha}$$

を $\mathfrak{g}^{\mathbb{C}}$ の \mathfrak{t} に関するルート空間分解とする. $\beta \in \Delta(G) \cup \{0\}$ と $\alpha \in \Delta(G)$ に対して

$$(\beta + \mathbb{Z}\alpha) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \{\beta + n\alpha \mid p \leq n \leq q\}$$

を満たす整数 p, q が存在し、

$$-\frac{2\beta(H_{\alpha})}{\alpha(H_{\alpha})} = p + q$$

が成り立つ. 特に $\frac{2\beta(H_{\alpha})}{\alpha(H_{\alpha})}$ は整数になる. ただし H_{α} は G に両側不変 Riemann 計量 $\langle \cdot, \cdot \rangle$ をいれ定理 10.3 と同様に定める. $\alpha \in \Delta(G)$ に対して

$$(\mathbb{R}\alpha) \cap \Delta(G) = \{\alpha, -\alpha\}.$$

$\alpha + \beta \neq 0$ を満たす $\alpha \in \Delta(G)$, $\beta \in \Delta(G) \cup \{0\}$ に対して

$$[\mathfrak{g}_{\alpha}, \mathfrak{g}_{\beta}] = \mathfrak{g}_{\alpha+\beta}$$

が成り立つ.

証明. 各 $\alpha \in \Delta(G)$ に対して定理 10.3 の証明中に示したことと同様にして

$$[E_{\alpha}, E_{-\alpha}] = H_{\alpha}$$

を満たす $E_{\alpha} \in \mathfrak{g}_{\alpha}$ と $E_{-\alpha} \in \mathfrak{g}_{-\alpha}$ をとることができる.
整数 r, s を

$$\begin{aligned} \{\beta + n\alpha \mid r \leq n \leq s\} &\subset \Delta(G) \cup \{0\}, \\ \beta + (r-1)\alpha &\notin \Delta(G) \cup \{0\}, \quad \beta + (s+1)\alpha \notin \Delta(G) \cup \{0\} \end{aligned}$$

となるようにとり

$$\mathfrak{g}^* = \sum_{n=r}^s \mathfrak{g}_{\beta+n\alpha}$$

とおく. \mathfrak{g}^* は $\text{ad}(\mathfrak{g}_{\alpha})$, $\text{ad}(\mathfrak{g}_{-\alpha})$, $\text{ad}(H_{\alpha})$ の作用に関して不変になる.

$$\text{tr}(\text{ad}(H_{\alpha})|_{\mathfrak{g}^*}) = \text{tr}([\text{ad}(E_{\alpha}), E_{-\alpha}]|_{\mathfrak{g}^*}) = 0.$$

他方 $X \in \mathfrak{g}_{\beta+n\alpha}$ に対して

$$(\text{ad}(H_{\alpha}))(X) = \sqrt{-1}(\beta + n\alpha)(H_{\alpha})X$$

だから

$$\mathrm{tr}(\mathrm{ad}(H_\alpha)|_{\mathfrak{g}^*}) = \sum_{n=r}^s \sqrt{-1}(\beta + n\alpha)(H_\alpha).$$

したがって

$$(s - r + 1)\beta(H_\alpha) + \frac{(s + r)(s - r + 1)}{2}\alpha(H_\alpha) = 0.$$

これより

$$\beta(H_\alpha) + \frac{s + r}{2}\alpha(H_\alpha) = 0$$

となり、

$$-\frac{2\beta(H_\alpha)}{\alpha(H_\alpha)} = s + r$$

が成り立つ。他の整数 r', s' で

$$\begin{aligned} \{\beta + n\alpha | r' \leq n \leq s'\} &\subset \Delta(G) \cup \{0\}, \\ \beta + (r' - 1)\alpha &\notin \Delta(G) \cup \{0\}, \quad \beta + (s' + 1)\alpha \notin \Delta(G) \cup \{0\} \end{aligned}$$

を満たすものがあるとすると、これらも

$$-\frac{2\beta(H_\alpha)}{\alpha(H_\alpha)} = s' + r'$$

を満たすことになり、矛盾がおこる。したがってこのような r と s は α と β に対して一意的に定まるそれを p と q で表せば、

$$(\beta + \mathbb{Z}\alpha) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \{\beta + n\alpha | p \leq n \leq q\}$$

が成り立つ。

すでに示したことを $\beta = 0$ と $\alpha \in \Delta(G)$ に適用する。

$$(\mathbb{Z}\alpha) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \{\beta + n\alpha | p \leq n \leq q\}$$

を満たす整数 p, q が存在し、 $p + q = 0$ が成り立つ。 $\alpha \in \Delta(G)$ だから $p \leq -1$ と $1 \leq q$ が成り立っている。

$$\mathfrak{s} = \sum_{n=-1}^q \mathfrak{g}_{n\alpha}$$

とおくと、 \mathfrak{s} は $\mathrm{ad} H_\alpha$ と $\mathrm{ad} E_\alpha$ の作用に関して不変になる。定理 10.3 より $\dim \mathfrak{g}_{-\alpha} = 1$ で $\mathrm{ad} E_{-\alpha}(\mathfrak{g}_{-\alpha}) = \{0\}$ となるので、 \mathfrak{s} は $\mathrm{ad} E_{-\alpha}$ の作用に関して不変になる。したがって

$$\mathrm{tr}(\mathrm{ad}(H_\alpha)|_{\mathfrak{s}}) = \mathrm{tr}([\mathrm{ad}(E_\alpha), E_{-\alpha}]|_{\mathfrak{s}}) = 0.$$

他方

$$\mathrm{tr}(\mathrm{ad}(H_\alpha)|_{\mathfrak{s}}) = \sum_{n=r}^s \sqrt{-1}n\alpha(H_\alpha) = \sqrt{-1} \frac{(q+2)(q-1)}{2} \alpha(H_\alpha).$$

$\alpha(H_\alpha) \neq 0$ だから $q = 1$ となり $p = -1$ 。したがって

$$(\mathbb{Z}\alpha) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \{-\alpha, 0, \alpha\}$$

がわかった。次に整数ではない $c \in \mathbb{R}$ に対して $c\alpha \in \Delta(G)$ となると仮定して矛盾を導こう。すでに示したことより

$$\mathbb{Z} \ni \frac{2c\alpha(H_\alpha)}{\alpha(H_\alpha)} = 2c$$

となるので、 $c = m + \frac{1}{2}$ ($m \in \mathbb{Z}$) と書き表すことができる。

$$-\left(m + \frac{1}{2}\right)\alpha, \left(m + \frac{1}{2}\right)\alpha \in \left(\left(m + \frac{1}{2}\right)\alpha + \mathbb{Z}\alpha\right) \cap (\Delta(G) \cup \{0\})$$

だから $-\frac{1}{2}\alpha, \frac{1}{2}\alpha \in \Delta(G)$ となる。ところが、上で示したことを $\frac{1}{2}\alpha \in \Delta(G)$ に適用すると

$$\left(\mathbb{Z}\frac{1}{2}\alpha\right) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \left\{-\frac{1}{2}\alpha, 0, \frac{1}{2}\alpha\right\}$$

となり $\alpha \in \Delta(G)$ に矛盾する。したがって

$$(\mathbb{R}\alpha) \cap \Delta(G) = \{\alpha, -\alpha\}$$

となる。

最後に $\alpha + \beta \neq 0$ を満たす $\alpha \in \Delta(G)$, $\beta \in \Delta(G) \cup \{0\}$ に対して

$$[\mathfrak{g}_\alpha, \mathfrak{g}_\beta] = \mathfrak{g}_{\alpha+\beta}$$

が成り立つことを証明しよう。定理 10.3 より

$$[\mathfrak{g}_\alpha, \mathfrak{g}_\beta] \subset \mathfrak{g}_{\alpha+\beta}$$

はずでにわかっている。そこで $\alpha + \beta \in \Delta(G)$ の場合を考えれば十分である。

$$(\beta + \mathbb{Z}\alpha) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \{\beta + n\alpha \mid p \leq n \leq q\}$$

とする。 $p \leq 0$ で $\beta + \alpha \in \Delta(G)$ だから $1 \leq q$ となる。ここで $[\mathfrak{g}_\alpha, \mathfrak{g}_\beta] = \{0\}$ と仮定して矛盾を導こう。

$$\mathfrak{n} = \sum_{n=p}^0 \mathfrak{g}_{\beta+n\alpha}$$

とおくと \mathfrak{n} は $\text{ad } H_\alpha$ と $\text{ad } E_{-\alpha}$ の作用に関して不変になる。さらに仮定 $[\mathfrak{g}_\alpha, \mathfrak{g}_\beta] = \{0\}$ より \mathfrak{n} は $\text{ad } E_\alpha$ の作用に関して不変になる。

$$\text{tr}(\text{ad}(H_\alpha)|_{\mathfrak{n}}) = \text{tr}([\text{ad}(E_\alpha), E_{-\alpha}]|_{\mathfrak{n}}) = 0.$$

他方

$$\text{tr}(\text{ad}(H_\alpha)|_{\mathfrak{n}}) = \sum_{n=p}^0 \sqrt{-1}(\beta + n\alpha)(H_\alpha) = (-p+1)\beta(H_\alpha) + \frac{(-p+1)p}{2}\alpha(H_\alpha).$$

$-p+1 \neq 0$ だから

$$2\beta(H_\alpha) + p\alpha(H_\alpha) = 0$$

となり

$$-\frac{2\beta(H_\alpha)}{\alpha(H_\alpha)} = p$$

が成り立つ。したがって $q = 0$ となり矛盾。よって $[\mathfrak{g}_\alpha, \mathfrak{g}_\beta] \neq \{0\}$ で、定理 10.3 より $\dim \mathfrak{g}_{\alpha+\beta} = 1$ だから

$$[\mathfrak{g}_\alpha, \mathfrak{g}_\beta] = \mathfrak{g}_{\alpha+\beta}$$

が成り立つ。

11.2 定義. 定理 11.1 と同じ設定条件のもとで \mathfrak{t} の基底 H_1, \dots, H_r を 1 つとって固定し \mathfrak{t}^* に次のように順序を入れる。 $\alpha, \beta \in \mathfrak{t}^*$ に対してある i が存在し $j < i$ のとき $\alpha(H_j) = \beta(H_j)$ で $\alpha(H_i) = \beta(H_i)$ が成り立つとき $\alpha < \beta$ と定める。

$$\Delta^+(G) = \{\alpha \in \Delta(G) | \alpha > 0\}$$

とおいて $\Delta^+(G)$ の元を正のルートと呼ぶ。正のルート α に対して $\alpha = \beta + \gamma$ となる正のルート β, γ が存在しないとき、 α を単純ルートと呼ぶ。

11.3 補題. 定義 11.2 と同じ設定条件のもとで互いに異なる 2 つの単純ルート α と β に対して $\beta - \alpha \notin \Delta(G)$ で $\langle H_\alpha, H_\beta \rangle \leq 0$ が成り立つ。

証明. もし $\gamma = \beta - \alpha \in \Delta(G)$ が成り立つとして矛盾を導こう。 $\beta = \alpha + \gamma$ だから $\gamma > 0$ ならば β が単純ルートであることに反する。また $\alpha = \beta + (-\gamma)$ だから $\gamma < 0$ ならば β が単純ルートであることに反する。したがって $\beta - \alpha \notin \Delta(G)$ が成り立つ。

定理 11.1 より

$$(\beta + \mathbb{Z}\alpha) \cap (\Delta(G) \cup \{0\}) = \{\beta + n\alpha | p \leq n \leq q\}$$

とおくことができる。上の集合に β は含まれるが、 $\beta - \alpha$ は含まれない。したがって $p = 0$ で $0 \leq q$ となる。さらに

$$-\frac{2\beta(H_\alpha)}{\alpha(H_\alpha)} = p + q = q \geq 0$$

となり

$$\langle H_\alpha, H_\beta \rangle = \beta(H_\alpha) \leq 0.$$

11.4 定理. 定義 11.2 と同じ設定条件のもとで $\{\alpha_1, \dots, \alpha_r\}$ を単純ルートの全体とする。このとき $\alpha_1, \dots, \alpha_r$ は線形独立になる。さらに任意の $\alpha \in \Delta(G)$ は

$$\alpha = \sum_{i=1}^r n_i \alpha_i$$

と表され、 $\alpha > 0$ のときはすべての n_i は 0 以上の整数になり、 $\alpha < 0$ のときはすべての n_i は 0 以下の整数になる。

証明. まず実数 c_i に対して

$$\sum_{i=1}^r c_i \alpha_i = 0$$

が成り立っているとする。

$$\begin{aligned} \{1, \dots, r\} &= I \cup J, & I \cap J &= \emptyset \\ i \in I &\implies c_i \geq 0 \\ j \in J &\implies c_j \leq 0 \end{aligned}$$

となるように I と J をとり、

$$\gamma = \sum_{i \in I} c_i \alpha_i = \sum_{j \in J} (-c_j) \alpha_j$$

とおく。

$$\gamma(H) = \langle H, H_\gamma \rangle \quad (H \in \mathfrak{t})$$

となるように H_γ を定めると、補題 11.3 より

$$0 \leq \langle H_\gamma, H_\gamma \rangle = \sum_{\substack{i \in I \\ j \in J}} c_i (-c_j) \langle H_{\alpha_i}, H_{\alpha_j} \rangle \leq 0.$$

したがって $H_\gamma = 0$ となり、 $\gamma = 0$ となる。

$$\sum_{i \in I} c_i \alpha_i = \sum_{j \in J} (-c_j) \alpha_j = 0$$

で $c_i \geq 0$, $-c_j \geq 0$ だからすべての c_k は 0 に等しくなる。したがって $\alpha_1, \dots, \alpha_r$ は線形独立である。

$\alpha \in \Delta(G)$ に対して $\alpha > 0$ のときは α を正のルートの和に分解していくことにより、

$$\alpha = \sum_{i=1}^r n_i \alpha_i$$

と表され、すべての n_i は 0 以上の整数になる。 $\alpha < 0$ のときはこの議論を $-\alpha$ に適用すればよい。